

部会グループ会議における意見と県の対応

資料3

プロジェクト		1 未病	
NO	委員名	意見	対応
1	小池委員	特定保健指導の実績値が全国平均よりも5%程低いと思われるので、全国平均と比べて分析していく必要がある。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。 二次評価（案）に反映しました。
2	小池委員	特定健康診査の全国平均を記載する必要がある。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。
3	小池委員	市町村国保における特定健康診査が全国的に低くなっているが、健康保険組合等における特定健康診査の場合は70%になっている。そうした中で、全体としての実施率が50%になっているので、それぞれの健康保険組合の状況を分析していく必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
4	平田委員	こころの未病の相談体制について引き続き丁寧に対応していく必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
5	平田委員	若年者の自殺予防に関し、SNSによる相談等について、高校生や教員等向けに研修を行う等の予防的な対応を検討していく必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
6	小池委員	未病センターにおける市町村保健師の役割が重要であることから、連携を充実していく必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
7	小池委員	全国平均値を数値目標などに記載すると、評価しやすくなるので、今後、工夫する必要がある。	次期計画に向けて検討いたします。

NO	委員名	意見	対応
二次評価（案）		<p>概ね順調に進んでいます</p> <p>未病センターの設置促進など市町村と企業との連携による環境整備が進むとともに、未病概念が普及しつつあることなどから、県の一次評価は妥当であり、「概ね順調に進んでいる」と評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特定健康診査・特定保健指導の実施率向上に向けて、保険者別の分析を行うなど効果的に取組みを展開する必要があります。 ・ こころの未病の相談体制について引き続き丁寧に対応するとともに、若年者の自殺予防に向けた取組みをより一層進めていく必要があります。 ・ 未病改善の取組みを効果的に展開するため、市町村の保健師等との連携により一層進めていく必要があります。 	

プロジェクト		2 医療	
NO	委員名	意見	対応
1	小池委員	在宅支援療養診療所の伸び悩みの分析について、届け出はしているが、実態として24時間行っている在宅支援療養診療所はほとんどないと承知している。数の把握だけでなく、24時間体制で在宅療養診療所を行っている割合など運用面も分析する必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
2	小池委員	再就業を働きかける未就業看護職員の実績値は年々増えていて評価に値するが、目標値が高すぎるのではないかと見直しに当たっては、例えば、離職する人のうち、再就業のトレーニングをしている人の割合を数値目標にすることも検討する必要がある。	二次評価（案）に反映しました。 次期計画に向けて検討いたします。
3	小池委員	訪問看護ステーションなど病院以外へ再就業の支援も含めて取組みを進める必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
4	小池委員	救急医療機関へ搬送される時間が長いことから、適切な救急車の利用について県民により一層周知する必要がある。	ご意見については事業実施の中で参考とさせていただきます。
5	小池委員	多死社会を見据えて、緩和ケア病棟の整備をしっかりと進めていく必要がある。	ご意見については事業実施の中で参考とさせていただきます。
6	平田委員	大きな医療機関と中小医療機関で十分な連携が図られていない印象を受けるので、県民に分かるようしっかりと対応していく必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
7	小池委員	地域医療構想が県民へしっかりと浸透するよう普及啓発を行っていく必要がある。	二次評価（案）に反映しました。

プロジェクト		2 医療	
NO	委員名	意見	対応
8	平田委員	訪問医療や訪問看護を行っている医療機関が県内のどこにあるのか、二次医療圏毎ではなく、可能であれば市町村単位で把握できると良い。併せて、県民への周知をしていく必要がある。	二次評価（案）に反映しました。

二次評価（案）	<p>概ね順調に進んでいます</p> <p>マイME-BYOカルテの利用者数が増加していることなどから、県の一次評価は妥当であり、「概ね順調に進んでいる」と評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅支援療養診療所の数だけでなく運用面にも留意し、住民が安心できる在宅医療の提供体制を整える必要があります。 ・離職者の数や復職等の意向の把握により一層取り組むとともに、訪問看護ステーションなど病院以外への就業も含め、未就業看護職員の再就業支援を進めていく必要があります。 ・地域医療構想の考え方がしっかりと県民に浸透するよう、市町村や医療機関等と連携し、効果的に周知を図る必要があります。
---------	---

プロジェクト		3 高齢者福祉	
NO	委員名	意見	対応
1	小池委員	目標値がどのように算出されているのか、妥当であるのかがわかるよう、目標値の根拠を明記していただくとわかりやすい。	ご意見については進行管理の課題として今後の参考とさせていただきます。
2	小池委員	高齢者の介護予防や地域生活の継続を図るために、小規模多機能型居宅介護サービスをより一層増やしていく必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
3	平田委員	地域包括支援センターが、高齢者に限らず子どもや障がい者などの相談を総合的に受け、地域づくりの核となっていけるよう、同センターの機能強化を進める必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
4	小池委員	認知症の医師やサポーターの養成に加えて、認知症をサポートする企業や団体の認定を行うなど、市町村が認知症フレンドリーシティとして取組みを進めていけるよう、県が積極的に取り組んでいく必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
5	平田委員	福祉人材の確保について、若い人たちの福祉分野への進学・就労を促すために、教員や学校関係者の理解を得ていく必要がある。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。 二次評価（案）に反映しました。

二次評価（案）	<p>概ね順調に進んでいます</p> <p>若年性認知症支援コーディネーターを新たに配置するなど認知症の人や家族に対する支援が進んでいることなどから、県の一次評価は妥当であり、「概ね順調に進んでいる」と評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の介護予防や地域生活の継続を図るために、小規模多機能型居宅介護サービスの普及啓発や事業所支援の充実、地域包括支援センターの機能強化など、地域包括ケアシステムの構築をより一層進めていく必要があります。 ・認知症サポート医や認知症サポーターなどを養成するとともに、認知症をサポートする企業や団体と協力して認知症の人にやさしい地域づくりに向けた取組みを、市町村と連携して進めていく必要があります。 ・福祉介護人材の確保に向け、若者の福祉介護分野への進学・就労を促進するため、福祉介護の仕事に関する普及啓発をより一層進める必要があります。
---------	---

プロジェクト		4 障がい者福祉	
NO	委員名	意見	対応
1	小池委員	数値目標が県内の障害者のニーズに沿った目標値なのか、再度検討する必要がある。	次期計画に向けて検討いたします。
2	小池委員	障がい者の就労訓練について、訓練が本当に就労につながっているのか、県内の企業・事業所の達成率がどうなのかということも併せた分析が必要である。	二次評価（案）に反映しました。
3	小池委員	障がい者の就労訓練について、テクノロジーを活用した訓練手法の開発にも取り組んでいく必要がある。	ご意見については事業実施の中で参考とさせていただきます。
4	平田委員	障がいだけでなく介護などの相談も受けられるオールラウンダーな専門家を養成していく必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
5	平田委員	障がい者の意思決定支援とともに、成年後見制度の利用促進を図っていく必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
6	平田委員	福祉施設における事件・事故の防止に向けては、施設の危機管理を強化するだけでなく、従事者の職業倫理に関する研修等を行っていく必要がある。	ご意見については事業実施の中で参考とさせていただきます。

二次評価（案）	<p>概ね順調に進んでいます</p> <p>福祉サービスの利用者数や相談支援専門員従事者数が増加するなど、障がい者の地域生活支援の取組みが進んでいることなどから、県の一次評価は妥当であり、「概ね順調に進んでいる」と評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者の就労訓練について、一般就労に結びついた割合の分析など、効果を検証する必要があります。 ・多様化するニーズに柔軟に対応できるよう、相談支援従事者の資質の向上をより一層図っていく必要があります。 ・障がい者の権利擁護に向けては、意思決定支援の実践とともに、成年後見制度の利用促進をより一層図っていく必要があります。
---------	---

プロジェクト		5 エネルギー	
NO	委員名	意見	対応
1	内田委員	神奈川は電気自動車の導入が全国トップである。世界が電気自動車の導入にシフトする中、電気自動車の導入が全国トップであるという神奈川の強みを指標として取り入れるとともに、アピールしていく必要がある。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。
2	内田委員	再生可能エネルギー等の発電出力について、神奈川は水力発電が全国の自治体の中でトップであることも含めてアピールする必要がある。	ご意見については事業実施の中で参考とさせていただきます。
3	内田委員	太陽光パネルの設置について、固定価格買取制度の見直しが進む中であって、厳しい環境であるが再生可能エネルギーの普及・促進に取り組む必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
4	内田委員	太陽光発電と合わせて、蓄電池の導入の促進を図り、省エネにもつなげる取組みを進めていく必要がある。	ご意見については事業実施の中で参考とさせていただきます。
5	内田委員 杉田委員	取組みにかかる予算規模を示す必要がある。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。
6	岩田委員	再生可能エネルギーに対する財政支援など神奈川県が他県に比べて、より重点的に支援している姿をアピールしていく必要がある。	ご意見については事業実施の中で参考とさせていただきます。
7	岩田委員	太陽光発電の伸びなどの成果が県の取組みによる成果なのか、民間の主体的な取組みによるものなのか、できるだけ明らかにしていく必要がある。	ご意見については事業実施の中で参考とさせていただきます。

プロジェクト		5 エネルギー	
NO	委員名	意見	対応
二次評価（案）		<p>概ね順調に進んでいます</p> <p>数値目標の達成状況は未把握ですが、再生可能エネルギーのさらなる導入など取組みは進んでいることから、県の一次評価は妥当であり「概ね順調に進んでいる」と評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 固定価格買取制度の見直しなど、再生可能エネルギーを取り巻く環境が変化している中であっても、より一層の普及に向けた方策を検討していく必要があります。 	

プロジェクト		6 産業創出	
NO	委員名	意見	対応
1	山本委員	ロボットの実証実験件数はどのような定義なのか示す必要がある。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。

二次評価（案）	<p>順調に進んでいます</p> <p>ロボットの実証実験件数が目標を大きく上回るとともに、生活支援ロボットの商品化が進んでいることなどから、県の一次評価は妥当であり、「順調に進んでいる」と評価します。</p>
---------	---

プロジェクト		7 海外展開	
NO	委員名	意見	対応
1	内田委員	ドイツとの交流を含め、先進国との交流についても、さらに進めていく必要がある。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。
2	内田委員	日本の中小企業は海外にあまり進出していない。それを引っ張り出していくことは大変だが工夫をしていく必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
3	内田委員 能登委員	県民ニーズ調査の国際交流が重要だと思う人が半分以下であり、これを改善していく必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
4	能登委員	中小企業の国際展開については、海外進出ではなく、共同出資の合弁会社設立や外国の企業とのライセンス契約などへの支援も必要である。	二次評価（案）に反映しました。
5	内田委員 岩田委員 能登委員	ベトナムだけでなく、幅広い視点で、いろいろな国との交流の実績を積み上げていく必要がある。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。
6	山本委員	数値目標②について、具体的に何を示しているのか、何をもちって件数を数えているのか、わかりにくいので分析欄に記載する必要がある。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。
7	内田委員	海外展開のプロジェクトでベトナムを重視する理由をわかりやすく示す必要がある。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。
8	岩田委員	神奈川の企業がどれだけ海外展開を図っているかを、明らかにするデータを示す必要がある。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。

プロジェクト		7 海外展開	
NO	委員名	意見	対応
二次評価（案）		<p>概ね順調に進んでいます</p> <p>外国企業の誘致や国際機関との連携は進んでいますが、中小企業の多様な海外展開ニーズに応じた支援を行う必要があることや、県民ニーズの動向において、「民間の国際交流・協力活動が活発であること」を重要だと思ふ人の割合が低いことなどからプロジェクトは「概ね順調に進んでいる」と評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際交流の重要性に関する県民意識の向上につながる取組みを進める必要があります。 ・経済のグローバル化に対応した企業支援については、海外進出支援だけでなく、国内の取組みも含め、様々な形態の支援を進めていく必要があります。 ・中小企業の海外展開ニーズをよりの確に把握し、効果的に取組みを進めていく必要があります。 	

プロジェクト		8 観光	
NO	委員名	意見	対応
1	内田委員	人口が減少している地域などは、観光のみならず他の分野でも活性化しないといけない。県が掛け声を掛けても、現地が動かないと難しいので、地元・地域と県が一緒になってやっていくような「地域との連携プロジェクト」を取り入れていく必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
2	能登委員	前年度の指摘事項にあった「民泊」への取組み状況について示す必要がある。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。
3	内田委員	「観光立県かながわの実現をめざして」というねらいの達成度を測るには、観光客数以外の指標についても検討していく必要がある。	次期計画に向けて検討いたします。

二次評価（案）	<p>概ね順調に進んでいます</p> <p>海外の国際観光展への出展や県外でのPRイベントの実施など国内外からの観光客誘致や新しい観光魅力づくりが着実に進んでいることなどから、県の一次評価は妥当であり、「概ね順調に進んでいる」と評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光振興が地域活性化にもつながるよう、県と市町村が連携した取組みを引き続き推進していく必要があります。
---------	---

プロジェクト		9 マグカル	
NO	委員名	意見	対応
1	岩田委員	「効果的な広報が課題」とあるが、県民のために取り組んでいるのに、県民に認知されていないのであれば、改善していく必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
2	山本委員	文化芸術に親しむ機会は、格調の高いものから、親子音楽会や親子劇場などニーズも様々だと思う。どこが満たされていないのかを調べることで、どこにポイントを置くのか、どこの地域でということ进行分析して対応する必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
3	能登委員	都心から離れていたとしても、個性的な音楽村や芸術村があったら人を呼び込めるのではないかと、といった視点を持つ必要がある。	ご意見については事業実施の中で参考とさせていただきます。
4	内田委員	文化芸術に関するマグネット力は横浜や川崎など県の東が強く、そこから離れると弱い。全地域が横浜や川崎と同じである必要はないが、県西地域などの住民も満足できるよう取組みを展開していく必要がある。	二次評価（案）に反映しました。

二次評価（案）	<p>概ね順調に進んでいます</p> <p>「神奈川文化プログラム」の認証や舞台芸術を担う人材の育成が進んでいることなどから、県の一次評価は妥当であり、「概ね順調に進んでいる」と評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県民が求めている文化芸術に関するニーズを把握・分析し、県として必要な施策を展開する必要があります。 ・ 県内全域で文化芸術に親しめる環境への満足度が高まるよう、取組みを展開していく必要があります。 ・ 県民にマグカルの取組みがさらに伝わるよう、より効果的な情報発信に努めていく必要があります。
---------	--

プロジェクト		10農林水産	
NO	委員名	意見	対応
1	内田委員	その他者社会環境を表す指標である県産木材生産量の推移については、この指標を用いる意義として、担い手の問題、機械化等の問題、経済的効果を記載する必要がある。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。 二次評価（案）に反映しました。
2	岩田委員	数値目標の数値等が小さいので、経済効果がどのくらい得られるのか、数値で示す必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
3	岩田委員	地域性などを踏まえながら、新たな担い手を育成することが必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
4	能登委員	県民ニーズで「地元で取れた新鮮な野菜や魚を食べられること」に満足している人の割合が低いことから、特産品を県民に知ってもらい、増やしていく必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
5	内田委員 岩田委員	特産品によっては、希少で買えないものがあるため県民に浸透せず、県民ニーズの満足度向上につながっていないことが考えられるため、県の特産品を県民に身近なものとして安定生産を図る必要がある。	二次評価（案）に反映しました。

二次評価（案）	<p>概ね順調に進んでいます</p> <p>差別化商品とし県が育成した野菜などの新たな販売契約数や、県産牛乳の商品開発などにより畜産ブランド数が目標を上回るなどから、県の一次評価は妥当であり、「概ね順調に進んでいる」と評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術革新による生産性の向上や集約化により、生産体制を充実させ、農林水産物に対する県民の認知度向上に向けた取組をより一層進める必要があります。 ・農林水産業の担い手の育成・確保にあたっては、新たな担い手が不足しているなど各地域の特徴を踏まえて対応する必要があります。 ・農林水産業の振興による本県経済への寄与を検証する必要があります。
---------	---

プロジェクト		11減災	
NO	委員名	意見	対応
1	中西委員	防災に関する評価はハード・ソフト両方の視点から、数値目標等について検討する必要がある。	次期計画に向けて検討いたします。
2	朱委員 松行委員 今井委員	シェイクアウトについて、事前登録者が本番で参加するよう実効性を高めつつ、さらに定着を図っていく必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
3	坪谷委員	災害時の通訳については、災害になれば日本人であろうが外国人であろうが変わりはないので、減災のプロジェクトに必要な視点である。	ご意見については事業実施の中で参考とさせていただきます。
4	坪谷委員 今井委員	大きな地震に備えて食料や飲料水を備蓄している人の割合が減っていることは深刻な問題であるので、こういったことをどう周知、啓発していくのか、具体的に何をしていくのか記載する必要がある。一番重要なことは、食料や飲料水を備蓄している人の割合が増加していくことだと思うが、その部分が減少してしまったことは周知する必要がある。	二次評価（案）に反映しました。

二次評価（案）	<p>順調に進んでいます</p> <p>「ビッグレスキューかながわ」や総合防災センターのリニューアルなどを通じて、自助・共助・公助の連携強化が推進されたことなどから、県の一次評価は妥当であり、「順調に進んでいる」と評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シェイクアウトについては、事前登録者それぞれがしっかりと安全確保行動を行うよう、今後も普及啓発定着を図っていく必要があります。 ・災害に備えて食料や飲料水を備蓄することについて、市町村などと連携して普及啓発を進め、家庭における備蓄を進めるする必要があります。
---------	---

プロジェクト		12治安	
NO	委員名	意見	対応
1	今井委員	数値目標①の「犯罪や交通事故がなく安全で安心して暮らせること」に関する県民意識については全体として下がっているような書きぶりであるが、地域差の分析を踏まえて対応する必要がある。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。
2	中西委員	プロジェクトの治安の数値目標については、「その他社会環境を表す指標」で取り上げている「刑法犯認知件数及び検挙率」や「交通事故状況」を採用することを検討する必要がある。	次期計画に向けて検討いたします。
3	中西委員	数値目標の設定根拠を示す必要がある。	ご意見については進行管理の課題として今後の参考とさせていただきます。
4	松行委員	県の施策が県民意識の変化につながっていないものもある。県民意識を数値目標とする妥当性については今後検討する必要がある。	次期計画に向けて検討いたします。
5	原嶋委員	ボランティアと自治組織や学校との連携についてどう取り組んでいくのか、高齢者の行方不明などについても警察だけでなく地域との連携を検討する必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
6	原嶋委員	サイバー空間でのやりとりによる犯罪との関わりについてもさらに対応を考えていく必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
7	原嶋委員 松行委員 今井委員	防犯ボランティア育成数の実効性がどれだけあるのか、検証していく必要がある。	ご意見については事業実施の中で参考とさせていただきます。

二次評価（案）	<p>概ね順調に進んでいます</p> <p>刑法犯認知件数が着実に減少し、防犯ボランティアの育成数が増加していることなどから、県の一次評価は妥当であり、「概ね順調に進んでいる」と評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の防犯について、ボランティア団体や自治組織、学校などとの連携をさらに推進していく必要があります。 ・サイバー空間の悪用など、若年者が巻き込まれやすい犯罪を防止するため、一層の取組みを進める必要があります。
---------	--

プロジェクト		13男女共同参画	
NO	委員名	意見	対応
1	小池委員	審議会などへの女性委員の登用や男性の育児休業取得率については、男女共同参画を意欲的に進める姿勢を示すためにも、全国平均などにとらわれず、県独自の高い目標を設定しても良いのではないか。	次期計画に向けて検討いたします。
2	平田委員	25～44歳の女性の就業率について評価する際には、子育てに専念したいと希望している女性がいることも勘案する必要があり、なぜ就業しないのかといった分析を行う必要がある。	ご意見については事業実施の中で参考とさせていただきます。
3	平田委員	男女共同参画を進めるにあたっては、雇用形態や職務内容、賃金などの面での男女平等を進めていく必要がある。	二次評価（案）に反映しました。

二次評価（案）	<p>概ね順調に進んでいます</p> <p>事業所における男性の育児休業取得率が大幅に増加していることなどから、県の一次評価は妥当であり、「概ね順調に進んでいる」と評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画の実現に向け、就業の場における男女間の格差を解消していく必要があります。また、職場環境の整備など、女性の活躍支援を進めていく必要があります。
---------	--

プロジェクト		14子ども・青少年	
NO	委員名	意見	対応
1	小池委員	数値目標①「保育所等利用待機児童数」の待機児童の定義変更について、わかりやすく記載する必要がある。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。
2	平田委員	数値目標②「児童相談所が受け付けた児童虐待相談のうち、一時保護を必要とした子どもの割合」について、一時保護が減ったことが一概に良いとは言えず、むしろ一時保護できる施設を増やして多くの子どもを保護した方が子どもの人権が守られるという考え方もできることから、数値目標として適切ではないのではないかと。	二次評価（案）に反映しました。 次期計画に向けて検討いたします。
3	小池委員 平田委員	不登校の児童や生徒の居場所づくりに関する取組みが読み取れない。学校に行けない子どもたちの居場所の1つとなるフリースクールについて、県の取組みをより進めていく必要がある。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。

二次評価（案）	<p>概ね順調に進んでいます</p> <p>社会的養護を必要とする子どもへの支援が着実に進んでおり、貧困の状態にある子どもを支援するための取組みも充実が図られていることなどから、県の一次評価は妥当であり、「概ね順調に進んでいる」と評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一時保護が必要な子どもの割合の減少が、真に保護を必要とする子どもを見落とすことにつながらないように、慎重かつ丁寧な支援が望まれます。
---------	--

プロジェクト		15教育	
NO	委員名	意見	対応
1	小池委員	数値目標としてICTに関するものが設定されているが、これからはグローバル社会に対応するための教育も重要である。今後、英語教育に関する指標の設定なども検討していく必要がある。	次期計画に向けて検討いたします。
2	小池委員	インクルーシブ教育に取り組むことは、共に生きる社会をつくっていく上で非常に重要である。更にこの取組みを進めていく必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
3	平田委員	県立高校は設備などでも私立と格差がある。この春の都立高校の入試では、私立高校の実質無償化の影響か、3次募集でも定員割れをしたとの話も聞く。公立と私立の教育環境の格差を是正し、公私ともに魅力的な学校作りを進める必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
4	平田委員	数値目標②については、教員の能力向上とともに、生徒の能力向上も重要である。最近では、生徒はスマホやタブレットを使っていて、パソコンに不慣れという話も聞く。社会に出ていく上で憂慮すべき事態であり、きちんと高校で教育する必要がある。	二次評価（案）に反映しました。

二次評価（案）	<p>概ね順調に進んでいます</p> <p>グローバル教育研究推進校などの指定校の取組みを着実に進めたことなどから、県の一次評価は妥当であり、「概ね順調に進んでいる」と評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共に生きる社会の実現に向け、すべての子どもができるだけ共に学び、共に育つことをめざすインクルーシブ教育の推進に、一層取り組む必要があります。 ・公立・私立ともに、魅力的な教育環境づくりに、一層取り組む必要があります。 ・生徒のICT機器の活用能力の向上に向け、一層取り組む必要があります。
---------	--

プロジェクト		16スポーツ	
NO	委員名	意見	対応
1	平田委員	数値目標②「県内総合型スポーツクラブの総会員数」については、県内人口と比べて目標値が低い。県民がスポーツに親しめる環境を評価する指標について、検討する必要がある。	次期計画に向けて検討いたします。
2	小池委員	日常的な生活の中で体が鍛えられる環境づくりについて検討する必要がある。 (例えば、県内全ての駅階段にカロリー消費を記載する等のモチベーション作りなど)	二次評価(案)に反映しました。
3	小池委員	パラリンピックなどのスポーツイベントを通して、様々な体験ができる様なサポートについて検討する必要がある。	二次評価(案)に反映しました。
4	平田委員	体力を測る指標を目標とすることについて検討する必要がある。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。 次期計画に向けて検討いたします。
5	平田委員	スポーツクラブに加入していることと、高齢者が元気でいられること等の関連なども分析する必要がある。	ご意見については事業実施の中で参考とさせていただきます。
6	小池委員	数値目標②「県内総合型スポーツクラブの総会員数」については人数だけでなく、継続しているかも把握していく必要がある。	ご意見については事業実施の中で参考とさせていただきます。
7	平田委員	県内地域総合型スポーツクラブの定義を示す必要がある。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。

プロジェクト		16スポーツ	
NO	委員名	意見	対応
二次評価（案）		<p>概ね順調に進んでいます。</p> <p>子どもの遊び・運動推進事業の実施や3033運動の普及・啓発に取り組むなど、ライフステージに応じたスポーツ活動を着実に推進していることなどから、県の一次評価は妥当であり、「概ね順調に進んでいる」と評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で運動やスポーツを促す環境づくりを進める必要があります。 ・オリンピック・パラリンピックなどの国際的なイベントを契機に、スポーツに関する様々な体験ができる機会の提供などに取り組む必要があります。 	

プロジェクト		17雇用	
NO	委員名	意見	対応
1	小池委員	高齢者の就業を拡大していくため、65歳以上の方も職業能力開発などもターゲットに含めプロジェクトを展開していく必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
2	小池委員	外国人の看護師・介護福祉士について、国家試験の結果は、残念な結果であった。研修生を受け入れている施設の努力によって合格率が違うこともあるが、成果を伸ばしていく方向で進める必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
3	平田委員	外国人看護師・介護福祉士の生活の相談などについて、地域で支援していく仕組みが必要である。	二次評価（案）に反映しました。
4	小池委員	急速な高齢者の増加に対応するため、外国人人材も含めて、介護、医療人材の確保に取り組む必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
5	平田委員	シングルマザーの雇用については、安定した就労に結びついていないケースが多い。仕事を掛け持ちしないと生活が成り立たない状況にあり、仕事内容や賃金に関することについても考慮した支援が必要である。	二次評価（案）に反映しました。

二次評価（案）	<p>概ね順調に進んでいます</p> <p>職業能力開発や就業支援を着実に進めており、障害者雇用促進センターを開設し、障がい者雇用の取り組みがあまり進んでいない中小企業への支援を強化していることなどから、県の一次評価は妥当であり、「概ね順調に進んでいる」と評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の就業を一層促進していくための職業能力開発や就業支援などに取り組む必要があります。 ・外国人看護師・介護福祉士候補者の国家試験合格の支援を一層進めるとともに、地域生活の支援にも取り組む必要があります。 ・賃金水準が低く仕事を掛け持ちするなど、不安定な就労状況等にあるひとり親に対して、安定した生活につながる支援に取り組む必要があります。
---------	---

プロジェクト		18地域活性化	
NO	委員名	意見	対応
1	中西委員	どういった観点で地域活性化を評価するのか、整理する必要がある。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。次期計画に向けて検討いたします。
2	松行委員	人口の社会増減については、一過性の要因に影響を受けることがあるため、長い目で見る必要がある。	ご意見については事業実施の中で参考とさせていただきます。
3	今井委員	地域活性化のためには、外国人観光客の受入体制を整え、インバウンドにもしっかりと取り組む必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
4	坪谷委員	健康に関する取組みである「未病」が地域活性化にも寄与することをわかりやすく説明する必要がある。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。二次評価（案）に反映しました。
5	朱委員	県西地域の活性化について、「未病」以外の展開も検討する必要がある。	ご意見については事業実施の中で参考とさせていただきます。

二次評価（案）	<p>概ね順調に進んでいます</p> <p>未病いやしの里の駅の登録施設数が目標を上回り、また、「未病バレー『BIOTOPIA（ビオトピア）』」がオープンを迎えるなど、人を呼び込む取組みが着実に進んでいることから、「概ね順調に進んでいる」と評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域活性化に向けて、外国人観光客の受入体制を整えるなど、インバウンドへの対応にもしっかりと取り組む必要があります。 ・未病改善の取組みを通じた地域活性化について、県民に分かりやすく示す必要があります。
---------	---

プロジェクト		19多文化共生	
NO	委員名	意見	対応
1	朱委員 坪谷委員	数値目標の「②かなファンステーションの利用者数」や「③地球市民かながわプラザの利用者数」をもって、「外国籍県民がくらしやすい環境づくり」を測れるのか疑問である。母国語による相談事業の実施や留学生からの就職相談など、神奈川県は力を入れて取り組んでいると思うので、そのような数値を指標として取り入れても良いのではないか。数値目標については、検討が必要である。	次期計画に向けて検討いたします。
2	坪谷委員	留学生の県内での就職ということにおいては、他のプロジェクトを見ると海外企業の誘致も進んでいるということなので、そのような企業と修了後の留学生とのマッチングといった取組みなども検討していく必要がある。	ご意見については事業実施の中で参考とさせていただきます。
3	坪谷委員	「外国人にとっても暮らしやすい地域社会になっている」かどうか、日本人だけではなく、外国籍県民に対する調査結果も示す必要がある。	ご意見については事業実施の中で参考とさせていただきます。
4	坪谷委員	ヘイトスピーチの問題に対する記載がないが、人権という側面からも、偏見や差別などをなくするための啓発や教育に取り組んでいく必要がある。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。二次評価（案）に反映しました。
5	坪谷委員	外国籍県民特有の問題もあるが、県民として、どのプロジェクトにも関係があるのでクロスセクションで課題を考えていく必要がある。	ご意見については事業実施の中で参考とさせていただきます。
6	原嶋委員 朱委員	一概に外国籍県民と言っても、外国籍県民間でコミュニケーションが取れないという課題もあることを考慮して、取組みを展開する必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
7	原嶋委員 朱委員 松行委員	「その他社会環境を表す指標」を見ると外国籍県民が増えている。少子高齢化していく中で、外国籍県民は増えていくだろう。多文化共生に向けてこれまでも取り組んできていると思うが、新たなステージに立っていることも踏まえた対策を展開していく必要がある。	ご意見については事業実施の中で参考とさせていただきます。
8	中西委員	「今後の課題と対応方向」は、留学生への取組み以外の記載が少ない。「多文化共生社会の実現」の内容を充実させる必要がある。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。
9	松行委員	外国籍住民の防災について何回か調査をしたことがあるが、外国籍の方は災害時に公助はあまり利用していない。通訳ボランティアも必要だと思うが、自助・共助ができる環境づくりを検討していく必要がある。	二次評価（案）に反映しました。

プロジェクト		19多文化共生	
NO	委員名	意見	対応
10	今井委員	外国籍県民が孤立してしまうことが問題である。日本人の外国人理解を課題として捉え、対応していく必要がある。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。

二次評価（案）	<p>概ね順調に進んでいます</p> <p>災害時通訳ボランティアの登録者数が増加していることなどから、県の一次評価は妥当であり、「概ね順調に進んでいる」と評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多文化共生の推進にあたっては、差別や偏見のない地域社会づくりという観点にも留意して、取組みを展開していく必要があります。 ・災害時などに外国籍県民自身が自助・共助に取り組める環境づくりを検討していく必要があります。 ・外国籍県民同士の交流促進や、相互理解を深めるための取組みを検討していく必要があります。
---------	--

プロジェクト		20協働連携	
NO	委員名	意見	対応
1	中西委員	数値目標の達成状況②「NPOと企業、大学などとの協働事業件数」は、目標値を達成しているものの、前年度より下がっているため、その理由を記載する必要がある。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。
2	中西委員	多様な主体による協働型社会の実現に向けて、NPOと企業、大学などとの協働事業が着実に増加するよう、しっかりと取り組む必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
3	原嶋委員	協働型社会の実現のためには、NPO法人だけでなく、地域課題の解決に向けて活動している多様な主体とのさらなる連携や、それらへの効果的な支援方法を検討していく必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
4	原嶋委員	協働型社会の実現のためには、NPO法人だけでなく、地域課題の解決に向けて活動している法人格のない任意団体への支援状況の把握及び評価方法を検討する必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
5	原嶋委員	行政が協働連携する主体が多様化している社会情勢を踏まえ、NPO法人以外の主体も視野に入れた協働連携のあり方を検討する必要がある。	二次評価（案）に反映しました。

二次評価（案）	<p>概ね順調に進んでいます</p> <p>「寄附者が税制上の優遇を受けられるNPO法人数」が目標に届いていないものの、「NPOと企業、大学などとの協働事業件数」が目標を達成しているなどから、県による一次評価は妥当であり、「概ね順調に進んでいる」と評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な主体による協働型社会の実現に向けて、NPOと企業、大学などとの協働事業が着実に増加するよう、しっかりと取り組む必要があります。 協働型社会の実現のためには、NPO法人だけでなく、地域課題の解決に向けて活動している多様な主体と、さらに連携を進める方策を検討する必要があります。
---------	--

プロジェクト		21自然	
NO	委員名	意見	対応
1	今井委員	数値目標の達成状況で、適切に管理されている森林面積の割合とあるが、適切に管理されている判断と、県がどのように関わっているか示すことが必要である。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。
2	坪谷委員	小網代の森の環境学習の場として、教職員等に一層周知するとともに、今後どのように活用していくか検討が必要である。	二次評価（案）に反映しました。

二次評価（案）	<p>概ね順調に進んでいます</p> <p>里地里山づくりや丹沢大山の自然再生、人と動物の共生に向けた取組みが進んでいることなどから、県の一次評価は妥当であり、「概ね順調に進んでいる」と評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「小網代の森」について、自然とふれあう環境学習の場としての活用を進めるため、学校などへさらに周知していくとともに、より一層活用が進む方策を検討していく必要があります。
---------	--

プロジェクト		22環境	
NO	委員名	意見	対応
1	原嶋委員	数値が把握できていない状況ではあるが、3つのうち1つしか達成できていないこと、また前年度のからの数値の低減を鑑み、やや遅れているという評価に変えることが必要である。	二次評価（案）に反映しました。
2	原嶋委員	廃棄物の3Rの状況は変わってきており、リサイクルの状況変化にどう対応するのか、減量、リユースを増やそうという動きなど状況が変わってきていることへの対応が必要である。	二次評価（案）に反映しました。
3	松行委員	達成状況の書き方で、目標値より上回っているのがよいのか、下回っているのがよいのか、個々に違っていてわかりにくい。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。
4	坪谷委員	環境の問題は、家庭に対するものと企業や民間に対するものがあるが、取り組みの焦点を明らかにする必要がある。	二次評価（案）に反映しました。

二次評価（案）	<p>やや遅れています</p> <p>数値目標の達成率はいずれも未把握ですが、2016年の「大規模排出事業者のうち二酸化炭素排出量の削減目標を達成した事業者の割合」及び「一般廃棄物の再生利用率」の数値がいずれも目標を達成しなかったこと、また2014年の数値よりも低減していることから、「やや遅れている」と評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物の3Rへの取り組みは、リサイクルよりもリデュースやリユースに比重を置くなど、社会環境の変化を踏まえて対応する必要があります。 ・環境に配慮した活動の推進は、家庭や企業等がそれぞれ自らの行うべき取り組みを明確に認識できるよう、引き続き効果的な意識啓発を進める必要があります。
---------	--

プロジェクト		23都市基盤	
NO	委員名	意見	対応
1	松行委員	このプロジェクトは整備が主になっているが、これからの時代、どうやってインフラの維持をしていくのかということを考える必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
2	松行委員	渋滞がないということを指標にしているが、道路を造れば渋滞はなくなるのかといった議論があり、道路整備と渋滞解消の関係を分析する必要がある。	ご意見については事業実施の中で参考とさせていただきます。
3	松行委員	県民ニーズ動向として、「道路や公共交通網がさらに充実し、県内外への利便性がよくなっている」というのがあるが、郊外の交通利便性が高まるということは、一方で郊外の人口が低密度なエリアが維持され、都市機能の集約化といったことが難しくなり、インフラの維持管理も難しくなるといった状況になってしまう。インフラの維持といった視点も踏まえ、県がどうしていきたいのかということ、もう一度考える必要がある。	二次評価（案）に反映しました。
4	中西委員	数値目標の①について、例えば、ICの時間距離の短縮などの指標であれば、周辺道路の整備も関連することになるが、現在の指標は、ICが造れるか造れないかに完全に依存してしまい、指標として不適切であり、指標自体を検討する必要がある。	次期計画に向けて検討いたします。
5	中西委員	神奈川県では、まだ幹線道路ができていない所があり、それを整備することは重要な課題であり、ネットワークの観点からも必要である。	二次評価（案）に反映しました。
6	中西委員	県が整備すべき区間で、整備できていない区間の延長割合のような指標の方が評価として、考え方として適切ではないかと考えられ、評価の方法を検討する必要がある。	次期計画に向けて検討いたします。

プロジェクト		23都市基盤	
NO	委員名	意見	対応
7	中西委員	「自然や歴史・文化、景観などの地域の特性を生かしたまちづくり」など、まちづくりについては、都道府県と市町村との役割といった部分か難しく、神奈川県のように基礎自治体が力を持っているところでは、市町村が主体的に取り組む部分が多い。人口減少など社会環境の変化が見込まれる中で、県として、市町村とともにどのようにまちづくりに取り組んでいくのか、また、それをどのように評価していくのかといったことについて考えていく必要がある。	次期計画に向けて検討いたします。

二次評価（案）	<p>やや遅れています</p> <p>新東名高速道路や（都）久里浜田浦線の開通など、道路網の整備は進んでいます。が、「インターチェンジまでの距離5km以内の地域の割合」や「道路の渋滞がないなど、自動車で県内各地へスムーズに移動できることに関する県民意識」に関する目標を達成しなかったことなどから、「やや遅れている」と評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市機能の集約化や交流と連携を支える交通ネットワークの充実を図るとともに、老朽化する公共施設の増加に対応した維持管理を進めるなど、持続可能な魅力あるまちづくりに一層取り組む必要がある。
---------	--